

営農技術情報

一畑作（秋まき小麦④）一

令和元年 6月3日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 Tel.01654-2-4524
JA道北なよろ Tel.01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター Tel.01654-3-4307

～まもなく、赤かび病防除の時機を迎えます！～

5月下旬の高温少雨で生育が進み、あと数日で出穂が始まります。赤かび病防除のタイミングを逃さないよう、準備を進めてください。

1 生育経過

〈本年および平年の生育状況〉

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃
本年	4/18	5/12	5/29	(※6/4)	(※6/6)	
平年	4/20	5/13	6/3	6/9	6/11	6/13
遅速	早2日	早1日	早5日	(早5日)	(早5日)	

(※)は、本年の生育遅速からの予想日

2 赤かび病防除について

- ・最も感染しやすい時期は、開花期前後です。
- ・感染前の穂に薬剤を十分付着させることが重要です。
- ・気温が高く好天が続く年では、出穂と同時に開花する場合があります。
- ・開花期に降雨が予想される場合は、早め（降雨前）に防除を行って下さい。

【防除体系例】（登録内容はR1.5.31現在）

散布時期	薬剤名	使用倍率	使用基準	
			時期	回数
1回目：開花始	シルバキュアフロアブル または、リベロ水和剤	2000倍 2000倍	収穫7日前 収穫7日前	2回以内 3回以内
2回目：1週間後	トップジンM水和剤 または ベフトップジンフロアブル	1000～1500倍 800～1000倍	収穫14日前 収穫14日前	出穂期以降2回以内 出穂期以降1回
3回目：2週間後	シルバキュアフロアブル または、リベロ水和剤	2000倍 2000倍	収穫7日前 収穫7日前	2回以内 3回以内

3 追肥について

- ・止葉期の追肥を行っていないほ場で、葉色が淡くなっている場合は速やかに追肥を行って下さい（窒素成分で2～4kg/10a）。
- ・出穂期頃の葉面散布は、タンパク含有率の向上に有効です。尿素等での葉面散布をご検討下さい（濃度は1～1.5%で2～3回散布）。

4 倒伏軽減について

少雨で茎の伸長は抑制されていますが、茎数が多いほ場では出穂期にかけて急激に伸長する可能性がありますので、生育状況に応じて倒伏軽減剤をご使用下さい。

【資材例】（登録内容はR1.5.31現在）

資材名	使用時期	使用回数	10a 使用量	10a 散布水量
エスレル10	止葉期～出穂始期	1回	200～333ml	100リットル